

令和元年度 総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和元年11月26日(火) 開会 午後4時00分
閉会 午後5時00分
2. 会 場 根室市役所 2階 中会議室
3. 出席者等 根室市長 石垣雅敏
(根室市教育委員会) 教育長 寺脇文康
委員 天神正人
" 岩崎園子
" 石垣浩一
" 魚谷直世
(事務局職員) 教育部長 園田達弥
学校教育指導参事 山谷良雄
教育総務課長 藤澤進司
社会教育課長 餅崎幸寛
社会体育課長 森本崇起
図書館館長 松崎 誉
総務主査 飯島美紀
学校教育主査 大宮正人
(傍聴者) 3名

4. 付議事項

- (1) 根室市立小中学校適正配置計画に基づく光洋中学校・啓雲中学校の統合について
- (2) 特別支援教育の充実について
- (3) 今後の教育施策について

5. 議 事

<藤澤教育総務課長>

ただいまから令和元年度総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、主宰者であります石垣市長より挨拶いたします。

○ 石垣市長あいさつ

<石垣市長>

令和元年度の総合教育会議開催に際しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆さんにおかれましては、日頃より本市教育行政の推進に、多大なるお力添えを賜っておりますとともに、本日は大変お忙しい中、ご参集いただき、誠にありがとうございます。

さて、本日の総合教育会議につきましては、平成26年の地方教育行政法の改正に伴い設置されたものであり、自治体の長と教育委員が一堂に会して教育行政について意見を交わすことで、両者が教育政策の方向性を共有し、一致した考え方で執行にあたることを目的とするものであります。

今回で6回目の開催となりますが、皆さんと有意義な情報共有および意見交換ができればと考えております。

私は、今年度の市政方針において、新学習指導要領の全面実施を見据えた学力向上対策やICT環境の整備、義務教育学校の開校、特別支援教育の充実などの主要施策を掲げるとともに、市街地中学校の2校化に向けた教職員の加配、学校教育指導参事の配置など、根室の将来を担う子どもたちのための各種施策について、市教委との連携のもと、積極的に推進することとしております。

また、社会教育においては、幅広い世代の発表機会や芸術鑑賞機会の充実、子どもたちの文化・スポーツ活動への支援、図書館機能の充実と読書活動の普及促進、歴史・文化資源を未来に継承していくための博物館活動の活性化の他、(仮称)根室市総合体育館整備構想の推進に努めることとしております。

本日は、これらの中から、次年度に向け政策的に重要と考えられる案件を中心に、情報共有および意見交換をしてまいりたいと考えております。皆さんにおかれましては、忌憚のないご意見を賜りますよう心よりお願い申し上げます、開会にあたっての挨拶といたします。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<藤澤教育総務課長>

ありがとうございます。それでは会議に入りたいと思います。

会議の進行は、主宰者であります市長にお願いいたします。よろしく願いいたします。

(1) 根室市立小中学校適正配置計画に基づく光洋中学校・啓雲中学校の統合について

<石垣市長>

まず初めに議題の(1)「根室市立小中学校適正配置計画に基づく光洋中学校・啓雲中学校の統合について」であります。

市街地中学校の2校化に向けた、協議経過等について、担当より説明をお願いします。

- ・教育総務課長から議案(P1~2)に基づき説明

<石垣市長>

今の説明について各委員よりお気づきの点がありましたら、ご発言をお願いします。(特になし)

それでは令和3年度の統合がスムーズに進むよう、学校やPTAとの連携を密にして進めてもらえればと思います。

(2) 今後の教育施策について

<石垣市長>

議題に入る前に、昨日、当市における「令和2年度予算編成会議」を開催したことから、市の財政状況を踏まえた今後の施策展開について、少しお話をさせていただきます。

来年度の収支見通しについては、根室新聞にも記載のとおり、ふるさと応援関連基金約17億5千万円の活用を図っても、約8億円の財政不足が見込まれるなど、現状のままでは、数年後には「貯金が枯渇する」という状況に直面していることから、長

期的な視点に立った「財政の健全化」と、計画的な「施策の展開」の両立を図っていくことが大変重要となっている現状であります。

私は、公約における政策目標の1つに『教育予算の確保と市街地2中学校の維持検討、社会教育活動の活性化など「教育・文化」の振興』を掲げております。

義務教育においては、学習指導要領の全面改訂を見据え、新しい時代に必要な資質・能力の育成や教育指導力の向上、教育現場でのICT活用、さらには特別支援教育の充実を後押ししてまいりたいと考えております。

また、社会教育においては、「子どもの健全育成と地域のつながりを育むための世代間交流の促進」が重要と考えるところであります。

当市における、財政の収支見通しとのバランスに配慮しながら、これらの政策をより効果的に展開していく必要があると考えております。

本日は、これらの中から「特別支援教育の充実について」を2つ目の議題にしたいと思っております。担当課より説明をお願いします。

・教育総務課長より議案（P3）に基づき「1通級指導教室の開設校の拡大」について説明

<山谷教育指導参事>

続きまして支援が必要な子どもが増えている現状につきまして、私の方からお話させていただきます。10年前までは支援を必要とする子どもの割合は学年で6%程度ということが文科省から発表されておりました。最近では全国的に各学年で10%を超える程度まで増えております。当市におきましては、なんらかの支援を必要とする子どもの割合は20%程度を超える状況になっております。なぜ支援を必要とする子どもの割合が増えているのかということについては、生まれながらにして障害を抱えている子どもさんのほか、育ってきた家庭環境に対応できず、なんらかの形で障害を抱えた子どものケースが非常に増えております。

先日行われた教育大学釧路校の二宮教授の講演会のお話によりますと、子どもが育ってきた環境により、なんらかの形で障害がおこる状況を「愛着障害」という専門用語で話しておりました。「愛着障害」といっても、悪い意味でも良い意味でも両方とらえることができる障害となり、障害を抱える子どもの増加は小学校の低学年においては特に多いです。先日幼稚園・保育所の所長さんや園長先生とお話したのですが、幼稚園・保育所でも支援を必要とする幼児が増えているため、教員の数を増やしたり、保育士さんを増やして対応しているという状況とのことでした。

このようなことから、根室市においては低学年の段階で早期に支援をしていくことが、よりよい環境で子どもたちに充実した教育を受けさせることに繋がるのではないかと考えております。

教育のバリアフリーと呼ばれておりますインクルーシブ教育の充実も現在進めているところであり、来年度から通級教室が成央小学校、その翌年に北斗小学校で出来るということで、早期支援を必要とする子どもの指導を充実させることが出来るかなと考えているところです。特別支援学級に在籍させた方がよいのかどうかは、子どもの発達状況に応じて判断していくことがふさわしく、そのため小学校3年生くらいの時までに各学校で判断されることと思っているところです。

今年から中標津の支援学校が設置され、そちらに通うお子さんもいます。ただ根室

の場合は支援学校に通った方がよいと思われるお子さんがいるのですが、あまりにも遠くて通学させることが困難なため、1年生から寄宿舎に入って生活をしなくては行けないなどの理由から、ある程度の年齢になるまで中標津の支援学校に通学させるのは難しいという現状があるのも事実です。以上です。

<石垣市長>

ただいま、1点目の「通級指導教室の開設校の拡大」そして、支援を必要な子が増えている現状についての説明がありました。本件について、ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

<天神委員>

今の説明によりますと、10年前が6%くらいなのが今は20%、その中に生まれながらの子もいるにしろ、家庭環境によってそのように増えてきているという、今の子どもたちの育て方については全国的にいろいろな問題もあると思われませんが、今、子どもの教育をしている世代の親を育てたのは私たちの世代であり、50代・60代、かなり責任があるのではないかと思います。

根室の場合、かなり割合が高く大変なことだと思いますが、全国的な傾向とはならず、根室特有の感じなのではないでしょうか。

<山谷教育指導参事>

はっきりしたことを述べることは難しいのですが、全国的にも若くして子どもさんを出産する家庭が増加しているということが理由のひとつにあるのではないかと思います。

<園田教育部長>

補足ですが、北海道内だけでもやはり平成20年と平成30年で支援を必要とする子どもの数は倍以上になっています。根室も顕著ですが、全道的にもこの傾向は進み、拡大している状況です。

<寺脇教育長>

付け加えますと、昔は落ち着きがないといわれていたような子どもにも今は、きちんと病名が付くような状況になっております。それでパーセントが昔に比べて増えているという実態はあります。ただそれは全道的な傾向ではありますが、残念ながら根室市においては全道の平均よりさらに高めに推移しているのかなという状況になっております。

<石垣委員>

早期に支援してやればやるほど、このパーセンテージが下がってくるということになるのですか。

<山谷教育指導参事>

パーセンテージは下がると思います。先日、石川県羽咋市を訪問してきましたのですが、低学年においては支援を必要とする子どもたちの実態は根室と似ています。ただ学年が進むにつれて、早期支援をすることにより普通学級で授業に参加できる子どもの数が増えてくるため、支援を必要とする子どもたちのパーセンテージが下がると思っています。

＜石垣市長＞

次に4ページの「特別支援学校の分校・分教室の誘致」について、担当課より説明をお願いします。

・教育総務課長より議案（P4）に基づき「特別支援学校の分校・分教室の誘致」説明

＜石垣市長＞

ただいまの説明を受けまして、ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

＜寺脇教育長＞

私から平成27年と29年の実際の要望にも新しい進展がありましたので、もう少し詳しくお話したいと思います。27年と29年の2回、道教委、道に要望を挙げたのですが実現には至っていません。1番の理由は特別支援学校へ通う児童生徒の人数のお話でございます。道教委は何人以上ならば特別支援学校を作るということは決めていないという話ですが、逆に10人を切るようであれば統廃合を考えるということを書いており、今現在市内から養護学校に通っている生徒が6人であるため、10人に満たない状況になっております。この10人に満たないというところが1番のネックだったのかなと思っております。

実際に支援学校に通っている生徒の他にも、市内の小中学校の特別支援学級に在籍しているけれど実際には特別支援学校での教育が望ましいと考えられる児童生徒も、細かに見ていきますと、18人おります。例えば釧路の特別支援学校に行くにしても2時間、中標津の高等養護が今度小学部・中学部も作ったが、それでも中標津まで行くにしても1時間半かかります。それだけ遠い所に、例えば小学生の子を親御さんが入れる決断はなかなか付きづらい、それがあるからこそ、6人の他に18人の子どももいるので足せば24人と、10名は超えます。

そのような事情も今度は道・道教委に話していくつもりです。また、新しく自分で施設を作って特別支援学校を建てる予定はないことから、どうしても誘致するとなった場合、空き教室などを用意しなくてはならず、いろいろ空き教室がある学校はありますが、花咲港小学校の地域にも相談してご了解が得られれば、花咲港小学校を念頭にしながらこのような活動を進めてまいりたいという考えであります。

＜天神委員＞

児童生徒ということは小学生と中学生両方ということでしょうか。この子たちは高校生になったらどうなるのですか。

＜寺脇教育長＞

中標津は、小学部、中学部、高等部と3つ持ってますから、中標津の高等部に進学するという事も考えられます。

＜園田教育部長＞

ちなみに、釧路の場合は、鶴野支援学校、釧路養護学校、白糠養護学校、この3つがあります。

＜寺脇教育長＞

道教委へ要望を挙げた当時は、根室管内において中標津の増の話を検討をしている真っ最中だったため、そこに根室市内の事を加えて欲しいというお話はなかなか聞いていただけなかったという事情もありましたが、中標津の方も終わったので新たな形でこれからさらに活動をパワーアップしていきたいと思っております。

＜天神委員＞

特別支援学級に通う子を育てている知り合いの家庭があるのですが、家庭としてはすごく教育に一生懸命でアイスホッケーやバドミントンなどをやらせています。

自分が参加しているバドミントンの練習時に、初めのうちは「さあ、みんな丸くなって体操しましょう」となると、その子はいなくなり、物陰に隠れたりして、ああ、一緒にできないんだって思ったのが、続けているうちに並んで一緒にやるようになり、「それではみんなで号令を掛けながらやるよ」となった時に、初めは声を出せなかった子が変わってくるんですね、それが出来るようになるんです。

その子の親も、普通の子どもと一緒にやらせるんだっていう気持ちがとても強いので、怒ることもあるし、励ますこともあるし、一般の親にもとても気を使って育てているなと思うこともあります。

私たちはバドミントンなどスポーツを通じて、他の子どもと同じように接することで、時間はかかりますが、どんどん出来るようになり、初めの時の行動から見るとすごく変わったなと感じることができます。

(3) 今後の教育施策について

＜石垣市長＞

情報提供やご意見ありがとうございました。

当市においても、支援を必要とする子が増えている現状について、あらためて情報共有することができましたし、小学校低学年における適切な支援の重要性についても認識したところであります。

こうしたことを踏まえ、子どもたちの支援環境を今後、一層充実させる必要があるものと考えているところであります。

続きまして、議題の(3)今後の教育施策についてであります。一つ目に、「子どもたちの健全育成と地域のつながり」に関連する施策として、「コミュニティ・スクール」の取り組みが、全国的に広がりを見せているということで、当市の現状についての説明をいただきたいと思っております。

次に、私が8月から開催してきました「政策会議」において、教育委員会より提出された案件の中から、特に市民の関心が高いと考えられる「総合体育館整備基本方針」と「マタニティブック事業」についてこれまでの経過や今後の方向性について、担当課から順次説明させたいと、ご意見をいただきたいと思っております。

それでは、社会教育課からよろしく申し上げます。

- ・社会教育課長より「コミュニティ・スクール(CS)導入に向けて」説明
- ・社会体育課長より『「(仮称)根室市総合体育館整備基本方針(素案)」策定の経過報告』説明
- ・図書館長より「マタニティブック事業」説明

＜石垣市長＞

ただいまの説明を受けまして、特にコミュニティ・スクールの件は、地域の大人が関わる中で、子どもたちに根室への愛着を深めてもらう観点から、大切な取り組みになってくると考えます。

根室の子どもたちに、どんな学びをしてもらいたいのか、人材確保も含めて、皆さんのお考えをお聞かせいただきたいと思っております。

<天神委員>

まずコミュニティ・スクールの件ですが、各学校が統廃合になり、根室半島に4校あった小学校が1つの小学校になりました。和田の方と酪農地域と漁業地域が一緒になったり、今までその学校で特色のある授業、たとえばよく新聞で紹介された温根元小学校でのゴメ島探検や、歯舞小学校でのさんまの加工など、それぞれ特色ある授業が統廃合によってなくなると困るなと思いました。

学校の運営が大変かと思うのですが、小さい学校でずっと続けてきた伝統的な行事をなくさず続けてほしいと考えます。現状としてはそのようなことを大事にしているのでしょうか。

<藤澤教育総務課長>

統合前のそれぞれの学校で行っていた特色のある授業につきましては、統合後の学校におきましても引き続き実施されております。

例えば温根元小学校で実施されておりましたゴメ島探検は歯舞小学校の方に引き継がれておりますし、中学校の水産学習でさんまや鮭の加工これも引き継がれて行われております。

また幌茂尻小学校で行われていたあさり学習についても海星小学校で引き続き行っており、特色のある授業は継続して新しい学校でも実施していると認識しているところであります。以上です。

<天神委員>

歯舞の関係でいえば、漁協がとても協力的で、組合員もPTAも漁業者であることもあって、いろいろなことに協力しているので、ものすごく助かっていると思います。

運動会は漁協の休みの日に行くなど、お互い持ちつ持たれつやっつてることを考えると、市内3校はさみしく、特色がないのではないかという気もしています。

<園田教育部長>

特に歯舞や落石はマリビジョンの取り組みがありまして、漁協さんにとっても元気な漁村作りを一生懸命やることによって漁港整備が進むという所もあり、相乗効果が得られるということもあって、受け入れ環境が出来ているのだと思います。

<石垣市長>

岩崎委員さんいかがでしょうか

<岩崎委員>

私は今音楽の方で、音楽サークルに入っているのですが、その関係で小学生にボランティアでジュニアアンサンブルの指導に関わったりして、楽器の関係で小学生には難しいかもしれないのですが、音楽を聴く機会とかプロじゃなくても根室には市民交響楽団もあるし、ストリングスバンドで素人の音楽になってしましますが、音楽に関わって貰えると音楽に興味を持ってもらえて、楽器を始めたいと思う子供たちが増えるかなと思いました。以上です。

<山谷教育指導参事>

先日、青少年健全育成で光洋中学校の吹奏楽部が老人福祉施設を毎年訪問しており表彰されました。そういう関係でいきますと、吹奏楽部を通じて小学校を訪問して音楽活動を広めたりなどの活動はされております。

統合により2校体制になってからは生徒の数も増えますので、吹奏楽部もさらに大

きくなって活動できると思っておりますので、音楽活動はこれからも進めていくことは可能です。よろしくお願いします。

＜石垣委員＞

私は根室生まれではないため、根室に来て思ったことがいろいろあるのですが、地域の事を学んでいこうということだと思いますので、根室にしかない所、特色のあるところを踏まえていくのがいいと思います。

漁業ですとか四島の話ですとか、野鳥の宝庫だといわれているところもありますし、これだけ市内の看板の中でロシア語が入っているところもそんなにないと思います。

せっかく根室で生まれて根室で育っていますので、根室ならではの経験が出来るようなことを小さい時に学ばせるというようなスタイルがいいのかと思います。

仕組みで行くと学校の吸収合併等ともリンクしていくのだと思いますので、地域から声があがってこの仕組みになるのか、それとも学校側が主体となって仕組みが出来上がっていくのかわからないですが、仕組み作りは先ほどの啓雲と光洋の話もそうですけれど、PTA活動のやり方も当然違うと思うので、現状でせっかく作ったものが、その吸収合併によってまた一から作り直さなければならないことがないよう、合併吸収のタイミングを含めて仕組みというものを作っていった方がよいのではと感じました。

＜寺脇教育長＞

市街地の学校につきましては今のお話のとおり、中学校の統合を控えているところがございますので、現在はそういった意味も一つにあります。そしてもう一つは先ほどお話がありましたとおり、歯舞地区や落石地区の方が地域とのつながりが深い、厚い所がありますので、今回義務教育学校となる予定である歯舞に、令和3年度からコミュニティ・スクールを導入して、そこをモデル校にしていきたいという考えがあります。

それをどのようにして市街地地域のコミュニティ・スクールにつなげていくか考えていきたいなというところでもあります。

＜石垣市長＞

魚谷委員いかがでしょうか

＜魚谷委員＞

コミュニティ・スクールについては、私自身PTAの役員をしております、コミュニティ・スクール、PTAを中心に提案をするよう、そういう仕組みが一番スムーズな流れかなと思うのですが、そういう所でPTAとしてもまだまだ足りない部分が多く、手を挙げる仕組み作りをしていかなければいけないのかなと思いました。

PTAとして私が中学生や高校生と話す機会がありまして、最近つくづく思うのは根室を好きだという子がすごく少なくなったなど、郷土愛がすごく少なくなったなどということです。

私が子どもの時はいろんなお祭り、サンドフェスティバルなどがあつたり、大人と会話する、子供同士でグループを作るというのが当たり前であり、そういうことで自然と郷土愛を作り出したのかなと思うのですが、今はすごく大人と子供の社会がはっきりと分かれているなど感じます。地域には素晴らしいお祭りもありますが、子どもが参加しなくなっている現状がありますので、そこをうまく参加させれる仕組みがで

きて、大人と子供が対話できる仕組みが出来れば郷土愛というのは作られるんじゃないかなと思います。以上です。

<園田教育部長>

皆さんやはりご承知のとおり、祭典区も子どもさんがなかなか参加してくれないということなのですが、一方でこのために根室へ帰ってきてくれる方もいて、これからも伝統を守っていくとなると、地域においてもお手伝いがないと成り立たない地域が出てきております。

限界集落の指標の一つに地域のお祭りが存続できなくなるということがあり、そのようなことが現実味を増してきているのがこの地区にはあると思いますので、そういった部分において子どもたちにどのように関わってもらい、郷土愛を育ていけるのか皆さんと考えていきたいと思っております。

<石垣市長>

はいありがとうございます。

それでは次に教育施策に関する「その他の状況報告・情報提供について」担当課より説明をお願いします。

- ・教育総務課長より①義務教育学校『歯舞学園』の開校について
- ②学力向上対策事業について
- ③学校給食の公会計化について説明

<石垣市長>

教育施策に関する「その他の状況報告・情報提供について」説明をしていただきましたが、いずれも、今後の義務教育環境のさらなる充実に欠かせない取組みでありますので、総合政策室や財政課など、市側の部署とも連携を密にしながら計画的に推進していく必要があると考えております。

今後におきましても、市民の皆様からの意見に耳を傾けながら、子どもたちの学びの充実や成長のため、また、併せて市民の学びの充実のために様々な施策が活かされるよう、取り組んでいかなければならないと考えております。

他にご意見はありませんか。

(特になし)

(3) その他

<石垣市長>

それでは、予定されていた議案についてはすべて終了しましたが、その他について、事務局からなにかありますか。

<園田教育部長>

特にありません。

○閉 会

<石垣市長>

それでは、本日本日予定された議件は全て終了いたしました。

本日本日いただきましたご意見も踏まえながら今後の教育施策を進めてまいりたいと考えております。本日は貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

午後 5 時 00 分閉会